

第1回(2019)中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りなど詳しく書いてください。

(授業時間は、1コマ 40～45 分)

※教案は日本語で書いてください。

※特定の教科書を使用していない場合は、PPT 等の使用教材もお送りください。

使用教科書:『普通高中課程標準実験教科書』(人民教育出版社)第5冊 第 24 課 (全 7 コマの内、本教案は 3 コマ目) 1コマ 40 分

(例)第 5 課の授業を 7 回に分けて、この授業を 3 回目にする場合。(第 5 課 全 7 コマの内、本教案は 3 コマ目)

【要選択】(高校 ・ 中学) 2 年 クラスの人数 29 人

【要選択】 第一外国語 第二外国語 課外活動 その他()

日本語学習歴 5 年

この授業の到達目標

1. 言語能力:インタビューの開始時と終了時の日本語表現を定着して、実際に運用できる。
2. 文化意識:インタビュー際のマナーがわかる。
3. 思考力:インタビューの質問の設定と自分の判断ができる。
4. 学習能力:情報の選別と応用ができ、協同作業の意識が高まる。

この授業の学習項目

1. インタビューの流れ。
2. インタビューの最初の挨拶と自己紹介、目的と内容の説明。
3. インタビューの終わりの言葉とお礼の言葉。
4. インタビューのマナー。

時間	段階 (授業の流れ)	練習・活動の内容(詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
5分	導入 (復習)	前回の授業ではインタビューの準備について勉強しました。今日は、復習します。まず次の質問に答えてください。 ①インタビューを順調に進めるためにどんなことを準備したらいいと思いますか。 道具、役割分担、質問の内容、言葉遣い ②インタビューするとき、どんな道具が必要ですか。	勉強した内容を回想して、新しい内容につなげる。	①正解には決まったものはない。 ②よくできない生徒には定着するまで繰り返す

		ペン、ノート、録音設備 ③インタビューする時の役割をどのように決めますか。 日本語が上手な生徒は連絡係とインタビュアーを担当します。 字がきれいな人は録音やメモを担当します。 ④インタビュー対象者に聞く質問はどのように決めたいですか。 自分が聞きたい質問を紙に書いて、みんなの意見を集めてから、もっとも聞きたい質問を選ぶ ⑤インタビューの最初と最後に何を言わなければなりませんか。 挨拶、自己紹介、目的と内容の説明；終わりの言葉、お礼の言葉		返し答えさせる。 ③使用するもの：掲示用模造紙（板書代り）
10分	展開 (ステップ2の内容)	インタビューする前の準備はもうわかりましたね。では、今日の授業はインタビューの過程について勉強します。どのようにインタビューを進めていきますか。 ①まず、孫翔宇さんと程晶晶さんが三上さんにインタビューする場面を見てください。見ながらインタビューの構成について、考えてください。 次の質問に答えてください。 「失礼します」まで // この部分は何についてですか。 挨拶と自己紹介 「聞いてください」まで // この部分は何についてですか。 お礼の話とインタビューの内容や目的の説明 「3 年半です。」まで // この部分は何ですか。 質問に入る 「ありがとうございました」まで // 最後の部分は何ですか。 インタビューを終わらせてお礼を言う ②次はもう一度聞いてください。今回は日本語の表現に注意してください。(プリントを配る)プリントの空いているところに適当な日本語を入れてください。 ③最後もう一度聞いてください。自分の書いたものをチェックしてください。	勉強項目を自分で習得させる。 元の録音に変わり、自作ビデオを使って、生徒の興味を呼び起こす。 録画を三回みせるが、目的はそれぞれ違う。一回目は内容面に注意させる；二回目は言語使いに注意させる；三回目は自分でチェックをさせる。	①インタビューの順序に注意させる。 ②長い文は途中で停止し、書く時間を与える。 ③使用するもの：生徒出演のビデオ、プリント1

7分	定着練習	①皆さんの書いたものを発表してもらいます。 ②次はみんないっしょに読んでください。 ③次は書いたものを見ないで、今の会話を完成してください。1分間自分で練習してください。 ④誰か発表してください。	答案の発表→コーラス→自分で暗唱→暗唱してみせるという四つのステップによって、勉強した内容を定着させる。	①表現さえ正しければいい。すべて同じとは限らない。 ②使用するもの:プリント2
10分	運用練習	①次は本校の日本語専門家丹藤先生にインタビューすることになります。隣の人とペアを組み、インタビューの進め方を考えながら練習してください。(5分間) ②では、ロールプレーをします。(時間によって5組ぐらい)	TT協同によって、実際場面を作り、勉強した内容を運用できるかどうか確認する。 協同作業の能力を育成する。 インタビューの内容面では独創力を喚起する。	①話題を積極的に創造することを強調する。 ②日本人先生に協力してもらう。
5分	補足	今のロールプレーはどうでしたか。インタビューするときのマナーに注意しましたか。では、次のビデオを見ながら、インタビューのマナーについて、いっしょにまとめてください。(自作ビデオを放映する) 服:制服のほうがいいです。整えていない服装ではだめです。 場所:静かなところがいいです。うるさいところはだめです。 挨拶:ちゃんと挨拶したほうがいいです。挨拶と自己紹介しないのはだめです。 質問:失礼な質問をしないように注意しなければなりません。 お礼:ちゃんとお礼を言わなければなりません。 礼儀正しく:座り方なども礼儀正しくしなければなりません。	礼儀正しい生徒と正しくない生徒から出演したビデオによって、生徒に自分でインタビューのマナーと注意事項をまとめさせ、身につけさせる。 自作ビデオを使い、ユーモアな演出で楽な雰囲気を作りたい。	①ビデオを流すとき、適当なところで一時停止して、生徒に即時にまとめさせる。 ②使用するもの:自作ビデオ
3分	まとめ	今日はインタビューの始めと終わりの言い方を勉強しました。最後に、もう一度復習します。黒板を見て	勉強した内容をもう一度確認させる。	①いっしょに声を出して、復習

		ください。 インタビューの始めに何を言いますか。 挨拶: こんにちは 自己紹介: はじめまして、～と申します。よろしくお願いします。 目的と内容の説明: 前にご連絡したように～ことになりました。今日は～をお話いただければと思います。 インタビューの終わりに何を言いますか。 終わりの言葉: インタビューは以上です。 お礼の言葉: お忙しいところ時間を作っていただき、ありがとうございました。		する ②板書の仕方を工夫する。 ③使用するもの: 掲示用模造紙(板書代り)
--	--	---	--	--

工夫点・アピールポイント(どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など)

1. 多くの内容を導入するのではなく、インタビュー開始時と終了時という一つの内容に焦点を当て、授業の流れを考えました。
2. 生徒一人一人の日本語能力に合わせ、本文の穴埋めやロールプレイといった難易度の違うタスクを用意しました。
3. 授業素材の展示方式にも工夫を凝らし、元の素材を使わずに、自分で作った素材を使いました。そのようにすることにより、生徒に新鮮味を与え、楽しく学べる雰囲気を作ります。また、出演する生徒はあらかじめ予習することにより、表現力と演技力も高めることができます。
4. ロールプレイの際に、日本人教師に協力してもらうことにより、できるだけ実際に近い場面を作りました。
5. 言語習得だけでなく、インタビューマナーからも文化について学び、生徒の全面的な能力を育成することができます。
6. 板書をする時間を短縮するために、模造紙を使い、黒板を見やすくするとともに、活動の時間を少しでも長く設けられるようにしました。

この教案の中で、研修会で学んだことを活かした部分

1. 提示用模造紙の使用
2. 聞き取りの3段階の運用
3. グループ協同作業の運用

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。